

国際文化交流学科履修案内

(2010から2013年度入学者に適用)

【国際文化交流学科の教育目標】

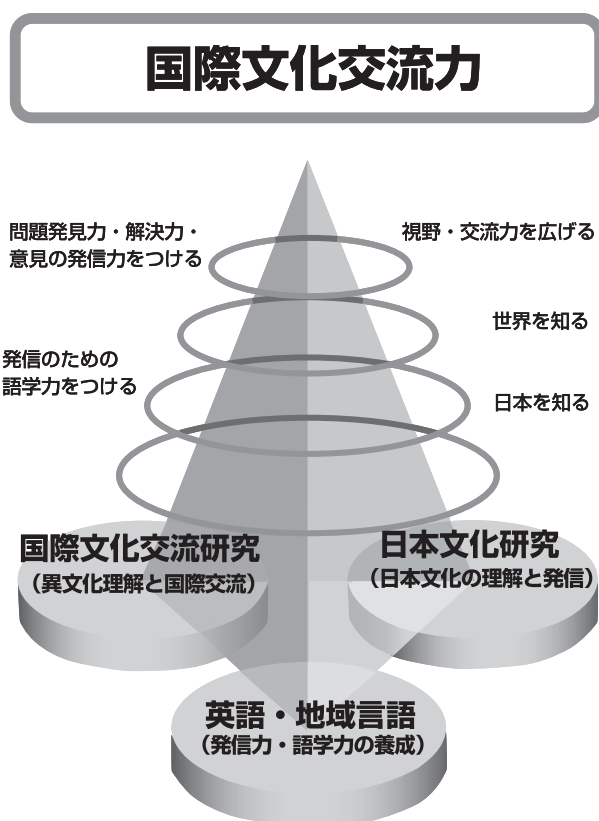
国際文化交流学科は、**異文化交流**、**日本文化発信**、**外国語**の三つの力を**総合的に養成**したいと考えている。言い換えれば、この学科に入学したあなた方一人ひとりに、文化の異なる人たちと**共生しながら日本文化を発信**できる人になってもらいたいと思っているのである。

日本文化と他の諸文化との共通点・相違点を知り、文化の障壁を乗り越えながら、心を開いて異文化の人たちと**コミュニケーション**できる人。日本文化のなかの良いものを見極め、それを外国語で**発信**できる人。そうして、平和な世界を築き人類の文化を豊かにすることに**貢献**できる人。そういう人を育てるのが国際文化交流学科の願いである。

【カリキュラムの概要と特色】

国際文化交流学科のカリキュラムは上述の教育目標を実現できるように組み立ててある。その構造を理解しながら、科目を履修してほしい。

まず、カリキュラム全体の構造に注目してみよう。国際文化交流学科の科目を大きく捉えれば、**日本文化研究**、**国際文化交流研究**、**英語・地域言語**という三つの科目群が三位一体型に組み合わせられている。それぞれ、**日本文化発信力**、**異文化交流力**、**外国語力**を伸張させるのを主眼とする科目群である。これら三群の**総合**により、あなた方一人ひとりが、いわば**国際文化交流力**とでもいうべき力を身につけることになるのである。また、個々の科目は、一年次から四年次へ進むにつれて、**導入・展開・総合**という骨格に沿いながら配置されていて、無理なく力が養成されてゆくようになっている。



【専攻科目の履修要領】

以下の記述は、「**教育課程表**」を見ながら読んでほしい。なお、ここでは、それぞれの科目群の概略と注意事項だけを述べる。それぞれの科目の詳しい内容については「**シラバス**」を参照してほしい。

また、学科を卒業するための履修の仕方に関する重要事項は「**教育課程表**」のうしろに「**履修要件**」・「**進級要件**」・「**卒**

業要件」としてまとめられているので、しっかり読んでもらいたい。

1. 専門基幹科目

「専門基幹科目」は、国際文化交流学科における学修の骨格をなす科目群である。

(1)「国際文化交流入門」(必修。1年次)

これは、国際文化交流学科における学修への導入、ならびに「専門展開科目」のなかの「国際文化交流研究」科目群への導入となる科目である。なお、この科目が「必修」と分類されているのは、卒業するためには必ず履修しなければならない科目、という意味である。この点は、以下も同様であるので繰り返さない。

(2)「日本文化研究入門」(必修。1年次)「専門展開科目」のなかの「日本文化研究」科目群への導入をおこなう科目である。

(3)「国際文化交流基礎演習」(必修。1年次)

演習方式で、国際文化交流学科における学修の基礎作りをする科目である。20名程度の少人数制で指導がなされる。なお、「演習」とは、少人数制で、討論や履修者による研究発表などを中心にする科目であることを示している。この点は以下も同様であるので、繰り返さない。

(4)「国際文化交流専門演習Ⅰ」(必修。2年次)少人数制で教員の指導を受けながら、日本文化、国際文化交流に関する研究を深めてゆく科目である。同時に、問題の発見能力や解決能力、意見の発信力も育ててゆくことになる。

(5)「国際文化交流専門演習Ⅱ」(必修。3年次)少人数制で教員の指導を受けながら、日本文化、国際文化交流に関して研究した事柄を総合するとともに、応用力を育てる科目である。

(6)「英語」(必修)

1, 2年次の「外国語科目」としての「英語」(7科目14単位必修)に加えて履修する科目群である。

2. 専門展開科目

専門基幹科目を肉づけし、学修や研究の幅を広げ深化させる科目群である。

(1)「英語」(選択必修。2～4年次)この科目群は、1, 2年次の「外国語科目」としての「英語」、および学科の「英語」(4単位必修。前述)と合わせて学修することになる。これにより、文化の発信と交流に不可欠な伝達手段を身につけてほしい。なお、「選択必修」科目とは、同一の「選択必修」科目群(この場合なら「専門展開科目」のなかの「選択必修」としての「英語」)のなかから、卒業に必要な単位(この場合なら10単位)をかならず履修しなければならない科目のことである。以下の「選択必修」についても同様であるので、繰り返さない。

(2)地域言語科目(選択必修。1, 2年次)

「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「ロシア語」、「中国語」、「韓国語」のなかから一言語を選び、8単位履修する。英語圏以外では、現地の言語を知らなければ庶民水準で交流することができない場合が多いので、英語に加えて、しっかり学修してほしい。

「日本語」(選択必修。1～2年次)は、外国人留学生、または帰国生徒などで日本語力が不足している者だけが履修できる科目である。

(3)日本文化研究科目、国際文化交流研究科目

それぞれの科目群について7科目(14単位)以上、2つの科目群を合わせて17科目(34単位)以上を履修しなければならない。そうすることによって、豊かな知識と偏りのない視野とを身に付けてもらうようになっている。

日本文化研究科目(選択必修。1～4年次)

国際的な文化交流には、日本文化を発信できる力が欠かせない。日本文化の多様な側面を深く学んで、明確に認識し、文化背景の異なる人に伝えられるようになってほしい。

国際文化交流研究科目(選択必修。1～4年次)

世界各地の文化と現状を幅広く学ぶとともに、それらを日本文化と比較し、文化背景の異なる人たちと交流する際の問題点は何かを認識する科目群である。

3. 関連科目

(1)日本語教育研究(選択。2, 3年次)

国際文化交流学科では、「日本語教員養成課程」(「資格教育課程」参照)の一部をなす科目群が、学科の卒業単位に算入可能な科目として開講されている。なお、「日本語教員」とは、外国人に日本語を教える先生を指している。

(2)知識や視野を広げる科目、実技・実践科目(選択。1～4年次)

現代人には必須の「情報処理」や、「広告文化論」などの知識・視野の拡大に役立つ科目、「出版編集実務論」や

「フィールド演習」のような実践科目が履修可能である。

(3) 地域言語特講(選択。原則として3, 4年次) ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, 韓国語, 日本語に関して多様な講義が開講される。

(4) 外国語学部ゼミナール(選択。2, 3年次)

少人数制で, 教員の指導を受けながら研究を深め, 問題の発見能力や解決能力, 意見の発信力を育ててゆく科目である。教員の研究分野にしたがい, 多様なゼミナールが開講される。

(5) 卒業研究(選択。4年次)

「国際文化交流専門演習Ⅱ」のつぎに履修してもよいし, 「外国語学部ゼミナールⅡ」, 「地域言語特講Ⅰ・Ⅱ」のつぎに履修してもよい。少人数制で, 教員の指導を受けながら卒業論文を執筆し, 研究の仕上げをおこなう科目である。

【履修モデル】

四年間の学修の道しるべとして, つぎのような履修モデルを参照するのもよいだろう。なお, 当然ながら, どのモデルの場合にも, 学科の卒業に必要な最小限の単位は科目群ごとにすべて履修しなければならない(たとえば「日本文化研究」の14単位以上など)。そのうえで, それぞれのモデルに必要な科目を重点履修するのだと考えてほしい。

1. 文化ビジネス・モデル ～国際感覚, 日本文化発信, 創造性～

【趣旨】

国際社会の中で日本文化の特色を理解するとともに, 日本文化を海外に向けて発信できる国際感覚豊かで創造的な人材の育成を目指す。

【将来の職業】

旅行・観光業, 放送・マスコミ, 出版関係, 海外研修斡旋, 文化イベント企画など。

【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

国際文化交流学科開講科目

「英語」選択必修科目から, 英語日本文化演習, 英語国際文化演習

「日本文化研究」科目から, 日本文化論, 日本芸能論, 日本思想史, 日本文化史

「国際文化交流研究」科目から, 国際文化論, 文化比較論, 国際文化交流特論, 国際事情

「関連科目」から, 観光論, 広告文化論, ジャーナリズム論, マスメディア論, 出版編集実務論

教養系科目

芸術論(美術), 芸術論(音楽), 日本史, 文学, 民俗学, 宗教学

法学部開講科目

国際法, 憲法, 家族法

経済学部開講科目

国際ビジネスコミュニケーション, 消費文化論, 国際ビジネス論

課外講座

旅行業務取扱主任者講座

2. 観光学モデル ～草の根レベルの国際理解の助っ人～

【趣旨】

庶民レベルでの国際的な相互理解を手助けする専門家になる。

【将来の職業】

旅行代理店勤務, ホテルマン, フライト・アテンダント, 航空会社地上スタッフ, 旅行ガイド・通訳, など。

【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

国際文化交流学科開講科目
「英語」選択必修科目から、英語日本文化演習、英語国際文化演習 「日本文化研究」科目から、日本文化論、日本芸能論、日本民俗学、日本文化史 「国際文化交流研究」科目から、国際文化論、文化比較論、国際事情 「関連科目」から、観光論、経済地理、国際経済学
教養系科目
芸術論（美術）、芸術論（音楽）、人文地理学、地理学（含地誌）、文化人類学、環境科学
工学部開講科目
建築史、都市デザイン論
経済学部開講科目
自然地理学、交通論、流通論、環境経済論、マーケティング
課外講座
旅行業務取扱主任者講座

3. 日本語教員モデル ～日本語を学びたい人は世界各地に～

【趣旨】

日本語教員に必要な言語学や日本語教育学の基礎知識を獲得し、言語と行動、言語と社会について分析する視点を身につける。日本語教員を目指す人は、国際文化交流学科の科目に加えて、資格課程の「日本語教員養成課程」に登録し、所定の科目を履修する必要がある。（「資格教育課程」参照）

【将来の職業】

日本語教員（国内の大学・日本語学校、海外の大学など）、地域日本語コーディネータ、JICA・国際交流基金等による海外派遣（日本語教育担当）、言語学・応用言語学系の大学院への進学。

【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

国際文化交流学科開講科目
「日本語教育研究」科目から、言語学概論、対照言語学、社会言語学、現代日本語学、現代日本語学、現代日本語学、言語習得論、言語習得論、日本語教育学、日本語教育学 など
教養系科目
言語学、言語学、日本語学、日本語学 など

4. 博物館学芸員モデル ～歴史・文化をより多くの人たちに～

【趣旨】

博物館は歴史・芸術・民俗などに関する資料を収集・保管して調査・研究をおこなうとともに、展示という手段を通して人々が歴史や文化に親しみ、関心を高めてもらうための場を提供する社会的役割を担っている。そのため、博物館の学芸員をめざす者は、日本の歴史・文化・民俗全般に通じ、調査・研究に必要な知識と技術を習得するとともに、その成果を広く人々にうたえかけるためのノウハウを身につける必要がある。『資格教育課程履修要覧』が定める学芸員の資格取得のための「学芸員課程」に関する科目以外にも次のような科目を習得しておくことが望ましい。

【将来の職業】

博物館学芸員、大学院歴史民俗資料学研究科など歴史民俗系大学院への進学。

【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。（＊印は「学芸員に関する科目」に含まれるもの）

国際文化交流学科開講科目
「日本文化研究」科目から、日本文化論、日本芸能論＊、日本思想史、日本民俗学＊、日本文化史＊、文化資料学、文化受容論など 「関連科目」から、観光論、出版編集実務論など
教養系科目
日本史＊、考古学＊、民俗学＊、文化人類学＊、芸術論（美術）＊、人文地理学、地理学（含地誌）など

5. 二言語重点モデル ～英語圏を越えて活躍～

【趣旨】

英語は国際的に最も重要な言語ではあるが、英語以外の言語が必要な場合も少なくはない。英語に加えて、学科開設

の地域言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・中国語・韓国語から選択）も必修の単位数を超えて学べば、より高度な語学力が養成され、英語圏以外での活躍の道も開ける。なお、国際人としての素養を高めるには、言語だけではなく、その地域の文化や歴史などの様々な知識を身に付けることも必要である。希望する進路によっては、他の履修モデルと組み合わせることも効果的である。

【将来の職業】

海外（英語圏および選択した言語の地域）に展開する商社・金融機関・製造業・サービス業、または旅行業・観光業（日本からの海外旅行に関する業種、外国からの観光客の受け入れに関する業種）

【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

国際文化交流学科開講科目
「英語」の必修科目・選択必修科目
「地域言語」選択必修科目から、入門○○語、応用○○語（いずれかの言語を選択）
「国際文化交流研究」選択必修科目から、選択した言語の地域に関連する「国際文化論」「文化比較論」「国際事情」など
「関連科目」から、地域言語特講○○語（スペイン語以外）
外国語科目
○○語上級、○○語中級
教養系科目・他学部他学科科目
選択した言語の地域に関連する科目

【その他の注意事項】

1. 本学科を卒業するためには合計128単位以上の修得が必要だが、各科目群ごとに最小限の履修単位が定められているので、「卒業要件」一覧表をしっかりと見てほしい。
2. 2年次から3年次へ進級するためには、FYS 2単位、国際文化交流基礎演習2単位、英語10単位以上をふくめて、60単位以上を修得しなければならないので注意してほしい。
3. 「外国語科目」としては「英語」を必修としている。学科専攻科目としての「英語」とあわせ、総体として28単位の英語を学ぶのだと理解してほしい。
4. TOEICを3回学内で受験してもらうことになっている。その成績によって6単位まで認定される制度もあるので、積極的にチャレンジしてほしい（「各種検定合格者の単位認定に関する規程」参照）。
5. TOEICのほかにも、TOEFL、実用英語技能検定、実用フランス語技能検定、ドイツ語技能検定、DELE：スペイン語技能検定、スペイン語技能検定、ハングル能力検定、漢語水平考試について単位認定制度がある。（「各種検定合格者の単位認定に関する規程」参照）。
6. 本学が推薦する海外研修制度の所定プログラム（「海外語学研修」）を終了した場合には、6単位まで単位が認定される制度があるので、積極的に利用してほしい（「海外語学研修の単位認定に関する取扱規程」参照）。
7. 英語の教職課程を履修する場合、「教科に関する科目」は英語英文学科の開講科目を履修することになるが、20単位を上限として、国際文化交流学科の「関連科目」に算入できる。

以上